

マクロ経済スライド名目下限方式の堅持に向けて（声明）

社会保障審議会年金部会は、21日の会議で「議論の整理」を取りまとめた。

社会的扶養である公的年金による国民生活の安定と、そのための年金制度の充実・持続は、現役世代・年金受給世代共通の要求である。

「議論の整理」は項目ごとの結論を示してはおらず、法案化については政府の判断に委ねられる部分が多い表現となっているが、取り上げたいいくつかの項目は年金制度の充実・持続と真摯に向き合う内容を持っている。今後の具体化に当たっては丁寧な説明により国民合意を得る努力が求められている。

退職者連合は年金受給者の組織として、これまで年金関連四法、社会保障制度改革国民会議報告、プログラム法などに係る年金課題について考え方を明らかにしてきた。その上に立って、社会保障審議会年金部会の検討課題のうち、第189通常国会で審議が想定されるいくつかの点についての要求を討議中であり、その決定に基づき今後関係者との協議を進めることとしている。

その最重点は、従来から主張してきたマクロ経済スライド名目下限方式の堅持である。退職者連合は、保険料上限固定方式の下で将来の年金受給世代の年金水準を確保するために、現在の受給世代の年金額を一定程度抑制するマクロ経済スライドを否定しない。また、現行の所得代替率を無条件で維持せよとも主張していない。しかし、マクロ経済スライド導入時に約束した「名目下限方式」を廃止することについては断じて認めることができない。

政府は、公的年金制度改革を行うにあたり、年金のみで生活している多くの高齢者に犠牲を強いるのではなく、安定した雇用の拡大と賃金引上げ、短時間労働者の年金加入拡大という制度安定の王道を歩む政策をこそ急ぎ推進すべきである。退職者連合は、社会保障審議会年金部会の「議論の整理」に接し、政府に対して、今後の検討に向けて、年金受給者の声を真摯に受け止めるよう重ねて要望する。

以上

日本高齢・退職者団体連合（退職者連合）

2015年1月22日